
射水市民病院改革プラン

計画期間

平成29年度 ～ 平成32年度
(2017年度) (2020年度)

見直し版【平成30年度までの決算反映】

令和2年3月

射水市民病院

※元号については、平成31年度以降も平成の元号で表記しています。



【目次】



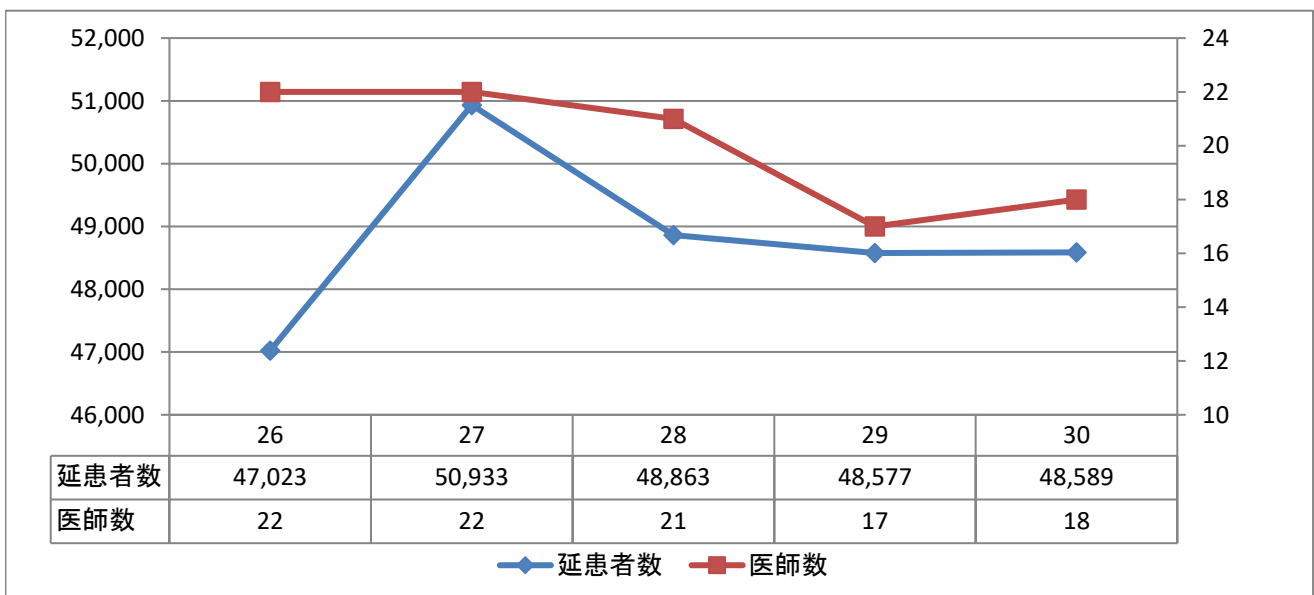
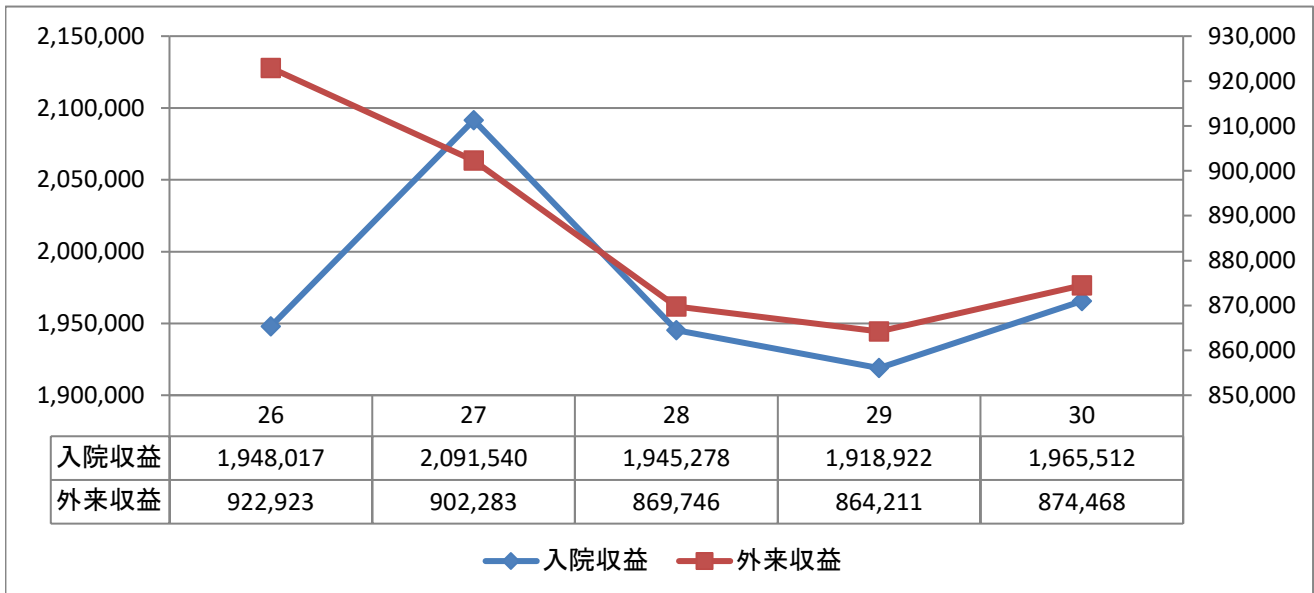
I	見直しの概要	1
II	経営指標に係る数値目標	2
1	収支改善に係るもの	2
	経常収支比率		
	医業収支比率		
2	経費削減に係るもの	3
	材料費対医業収益比率		
	職員給与費対医業収益比率		
3	収入確保に係るもの	4
	患者一人一日当たり診療収入		
	年延べ患者数		
	病床利用率（一般病床）		
	平均在院日数		
4	経営の安定性に係るもの	7
	現金保有残高		
	企業債残高		
5	収支計画	8

I 見直しの概要

平成29年3月(平成28年度末)に「射水市民病院改革プラン」(以下「プラン」。)を策定してから2年が経過し、この間、医療環境は大きく変化しました。全国的には平成30年度に医療・介護同時となる診療報酬改定が実施されたことに加え、働き方改革が施行され医療分野においても大きな影響を及ぼしています。

加えて、当院においてはプラン策定期間である平成28年度及び平成29年度において、想定以上の医師(主に内科医師)が退職したことで策定段階と策定後では状況が大きく変化し、医業収益に大きく影響しました。

診療報酬改定を踏まえた施設基準の見直しや、病床機能見直し(地域包括ケア病棟の増設)による患者数の確保、並びに病床稼働率の向上を図り収益向上に努めましたが、速やかな医師の確保が難しい現状を踏まえて各経営指標や収支計画について見直しを行いました。



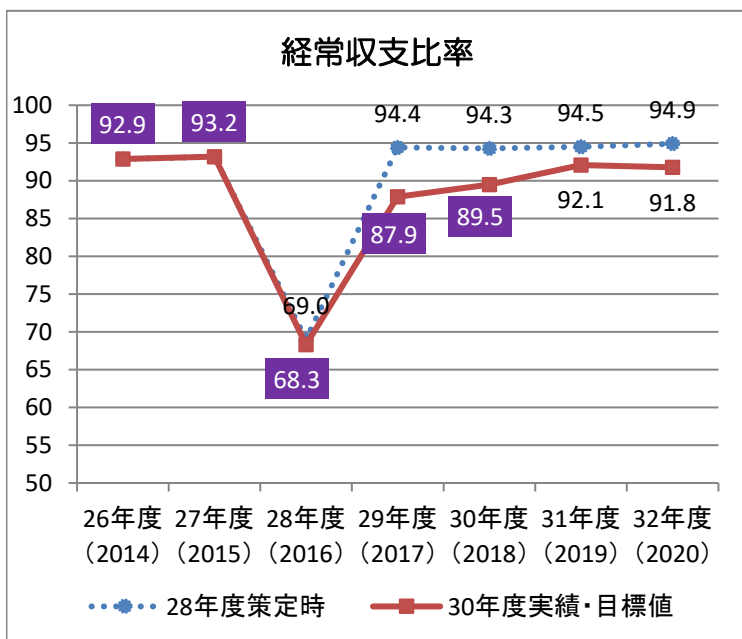
Ⅱ 経営指標に係る数値目標

1 収支改善に係るもの

単位:%

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)
経常収支比率	92.9	93.2	69	94.4	94.3	94.5	94.9
上段:28策定時、下段:実績・目標値	92.9	93.2	68.3	87.9	89.5	92.1	91.8
医業収支比率	89.7	93.1	64.4	90.2	88.9	89.5	89.4
上段:28策定時、下段:実績・目標値	89.7	93.1	63.8	82.9	83.7	86.5	86.7

実績← →見込



目標：100%以上

経常収支比率は、経常収益(医業収益+医業外収益)を経常費用(医業費用+医業外費用)で除した値で表すもので、収益性、成長性を示す指標です。この比率が高ければ安全性が高いとみなします。一方、100%を下まわる場合は損失が発生していることとなります。

当初策定時との変動要素

主に入院収益の減少により、計画値よりも比率が下回りました。

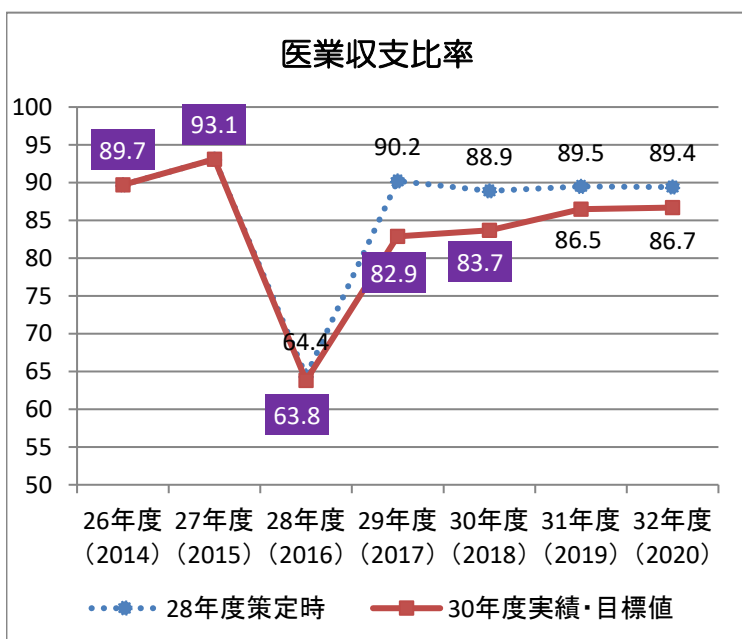
経常収支比率100%到達予定年度

28年度策定時:平成37年度(令和7年度)

見直案策定時:令和15年度以降

■ は実績値を表しています。

※28年度の比率は旧診療棟解体に係る除却費を含みます。



目標：比率の上昇

医業収支比率は、医業収益を医業費用で除した値で表すもので、経常収支比率と同様に収益性、成長性を示す指標です。

医業における収入と支出との割合を比率で捉えるもので、この比率が高ければ医業活動における収益性が高いとみなされます。

当初策定時との変動要素

主に入院収益の減少により、計画値よりも比率が下回りました。

経常収支比率100%到達予定年度

28年度策定時:平成37年度(令和7年度)

見直案策定時:令和15年度以降

■ は実績値を表しています。

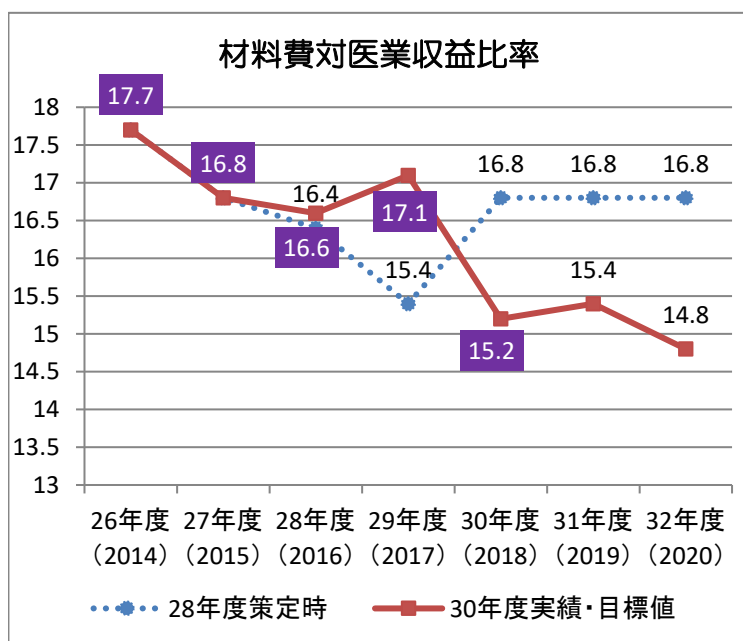
※28年度の比率は旧診療棟解体に係る除却費を含みます。

2 経費削減に係るもの

単位:%

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)
材料費対医業収益比率	17.7	16.8	16.4	15.4	16.8	16.8	16.8
上段:28策定時、下段:実績・目標値	17.7	16.8	16.6	17.1	15.2	15.4	14.8
職員給与対医業収益比率	63.7	63	67.3	61.3	61.7	61.2	60.5
上段:28策定時、下段:実績・目標値	63.7	63	67.3	67.4	68.9	66.6	63.3

実績← →見込



目標：比率の下降

材料費を医業収益で除した値で、医業に係る収益に対してどの程度の割合で材料費がかかっているかを表しており、比率が小さいほど少ない費用で効率的に収益を上げていることを表しています。

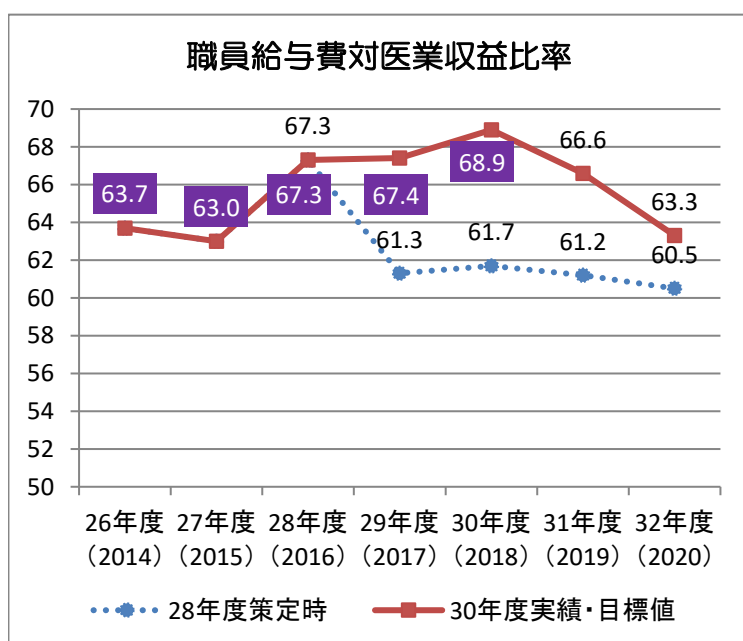
当初策定時との変動要素

患者の病状に応じて使用する薬品や診療材料が異なるため、一時的に比率は上昇しましたが、診療材料の共同購入や、ジェネリック薬品の使用推進を図り比率の下降に努めています。

改善に向けた課題

医業収益の確保と購入材料の見直し

■ は実績値を表しています。



目標：比率の下降

職員給与対医業収益を医業収益で除した値で、医業に係る収益を上げるためにどの程度の人件費が支出されているかを示す比率です。この比率が高いと医業活動における職員給与の割合が高いことを表しています。

当初策定時との変動要素

常勤医師不足を非常勤医師で補っているため、効率的に医業収益の確保できなかったことや、給与改定や待遇改善による賃上げにより職員給与費全体が上昇しました。

改善に向けた課題

医業収益の確保と適正な人員配置

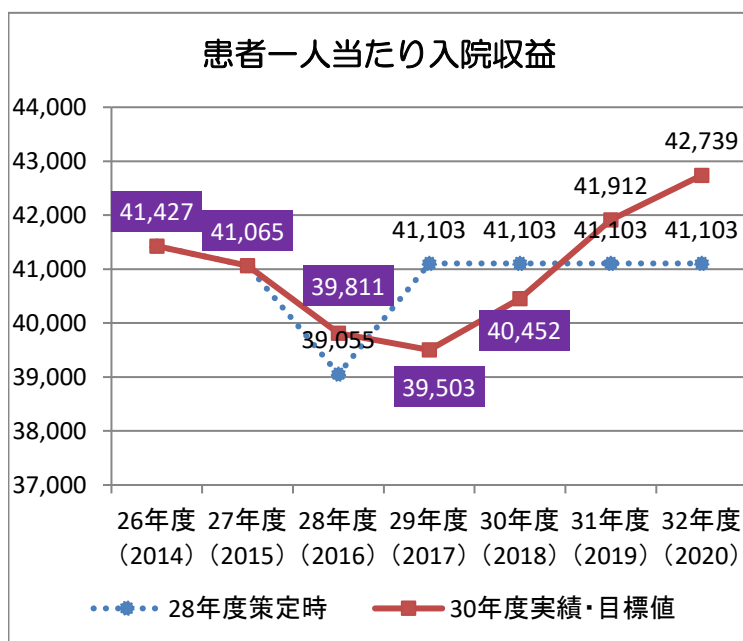
■ は実績値を表しています。

2 収入確保に係るもの

単位：円

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)
患者一人当たり入院収益	41,427	41,065	39,055	41,103	41,103	41,103	41,103
上段:28策定時、下段:実績・目標値	41,427	41,065	39,811	39,503	40,452	41,912	42,739
患者一人当たり外来収益	9,233	9,201	9,076	9,609	9,378	9,351	9,326
上段:28策定時、下段:実績・目標値	9,233	9,201	9,091	9,550	9,536	9,662	9,785

実績← →見込



目標：45,000円以上を目標

1人の患者が入院した場合、1日当たりどのくらいの収益があったかを表しています。急性期病棟と回復期病棟では入院にかかる診療費が異なるため、数値は平均値となっています。

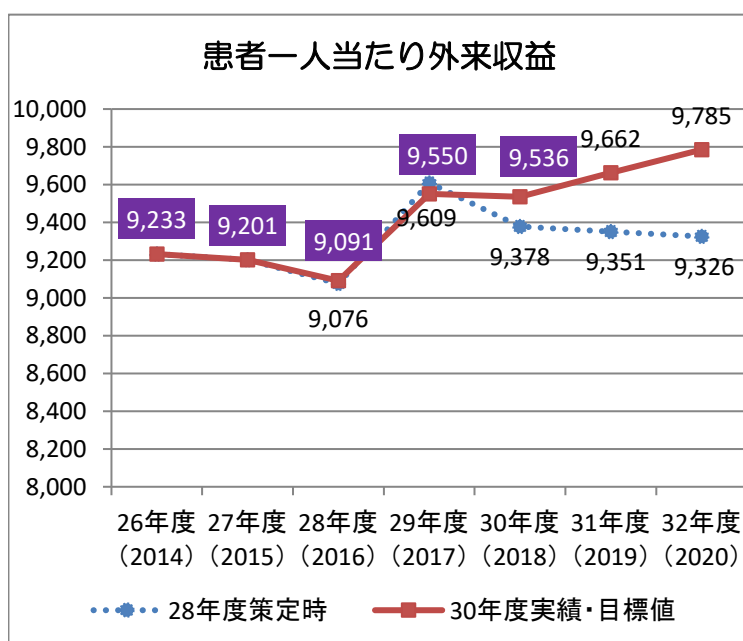
当初策定時との変動要素

医師の減少により、救急搬送受入患者数が減少したことで一時的に診療単価も減少しましたが、効率的な病床運用により上昇傾向にあります。

改善に向けた課題

効率的な病床運用

■ は実績値を表しています。



目標：10,000円以上を目標

1人の患者が外来を受診した場合、1日当たりどのくらいの収益があったかを表しています。

当初策定時との変動要素

救急搬送患者数は減少したものの、人工透析業務を週3回を2クール体制に拡充したことにより診療単価が上昇しました。

改善に向けた課題

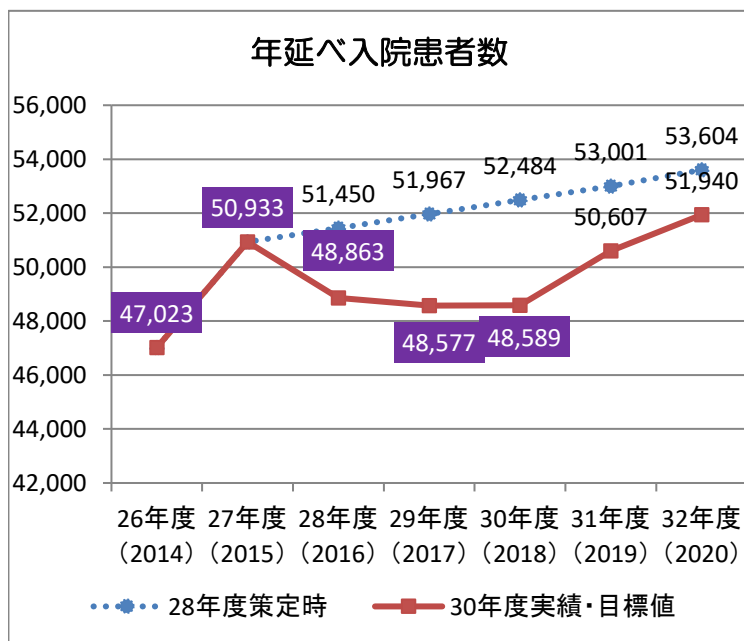
救急搬送率の向上

■ は実績値を表しています。

単位：人

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)
年延べ入院患者数	47,023	50,933	51,450	51,967	52,484	53,001	53,604
上段:28策定時、下段:実績・目標値	47,023	50,933	48,863	48,577	48,589	50,607	51,940
年延べ外来患者数	99,954	98,060	96,853	96,766	96,679	96,592	96,527
上段:28策定時、下段:実績・目標値	99,954	98,060	95,671	90,489	91,697	92,766	93,600

実績← →見込



目標：53,000人以上を目標

1年間の延べ入院患者数(在院患者数+退院患者数)を表します。

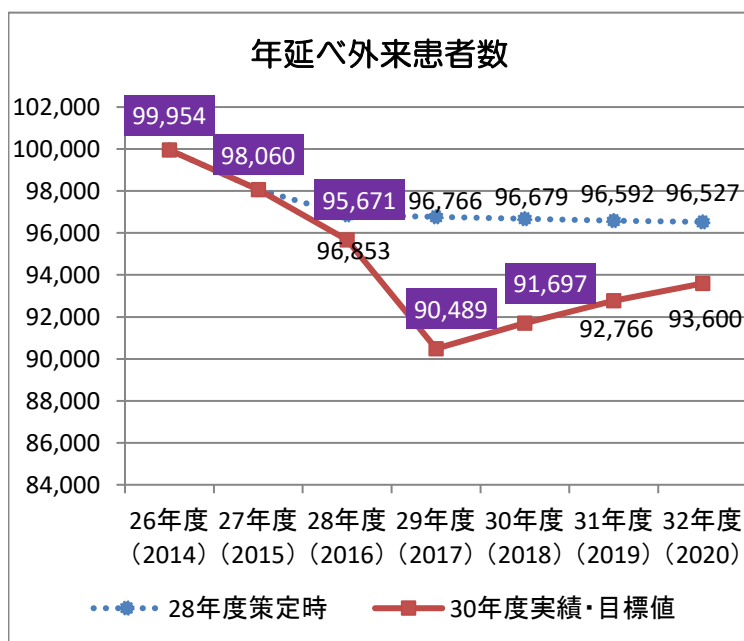
当初策定時との変動要素

平成28年度から常勤医師数が減少(28年度→30年度:△3名、内科系△5名・外科系+2名)したため減少傾向にありましたが、効率的な病床運用により増加傾向にあります。

改善に向けた課題

医師(主に内科系医師)の確保

■ は実績値を表しています。



目標：95,000人以上を目標

1年間の延べ外来患者数(新規患者数+再来患者数)を表します。年によって診療日数が違うため、診療日数により増減します。

当初策定時との変動要素

平成28年度から常勤医師数が減少(内容は入院と同様)したことに加え、内科・循環器内科の午後初診外来の廃止により減少しましたが、一定の医師が確保できたことで増加傾向にあります。

改善に向けた課題

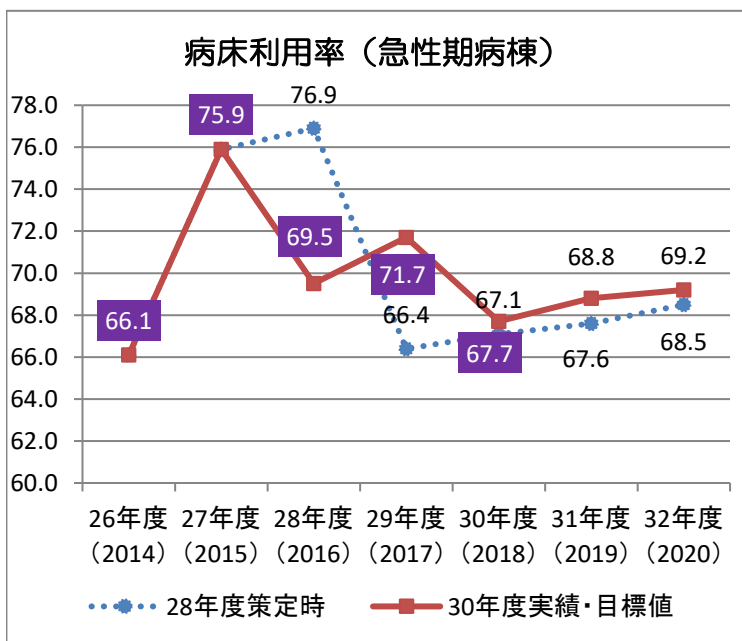
医師(主に内科系医師)の確保

■ は実績値を表しています。

単位:率

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)
病床利用率(急性期)	66.1	75.9	76.9	66.4	67.1	67.6	68.5
上段:28策定時、下段:実績・目標値	66.1	75.9	69.5	71.7	67.7	68.8	69.2
病床利用率(地域包括)	0.0	58.9	59.6	79.0	79.8	80.4	81.5
上段:28策定時、下段:実績・目標値	0.0	58.9	66.4	64.9	68.8	70.2	70.1

実績← →見込



目標：70%以上を目標

一般病床のうち、結核病床を除く急性期病床(96床)の年間病床利用率を表しています。

当初策定時との変動要素

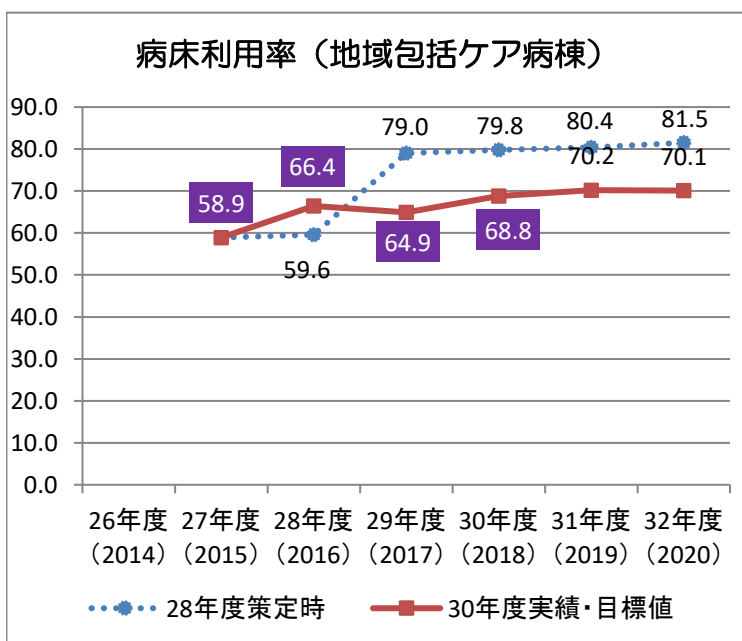
医師数の減少により救急受入数が減少したことで急性期患者が減少しました。

改善に向けた課題

効率的な病床運用の徹底や、地域連携による患者紹介件数の増加を図る必要があります。

※一般病床数(結核病床除く)で算出しています。

■ は実績値を表しています。



目標：80%以上を目標

一般病床のうち、回復期病床である地域包括ケア病床(99床)の年間病床利用率を表しています。

当初策定時との変動要素

入院期間が長い(最長60日可能)患者が多いことから、機能にあった病棟設備へ改修したことにより、一時的に入院制限したこと等で計画値を下まわりました。

改善に向けた課題

効率的な病床運用の徹底や、地域連携による患者照会件数の増加を図る必要があります。

※一般病床数(結核病床除く)で算出しています。

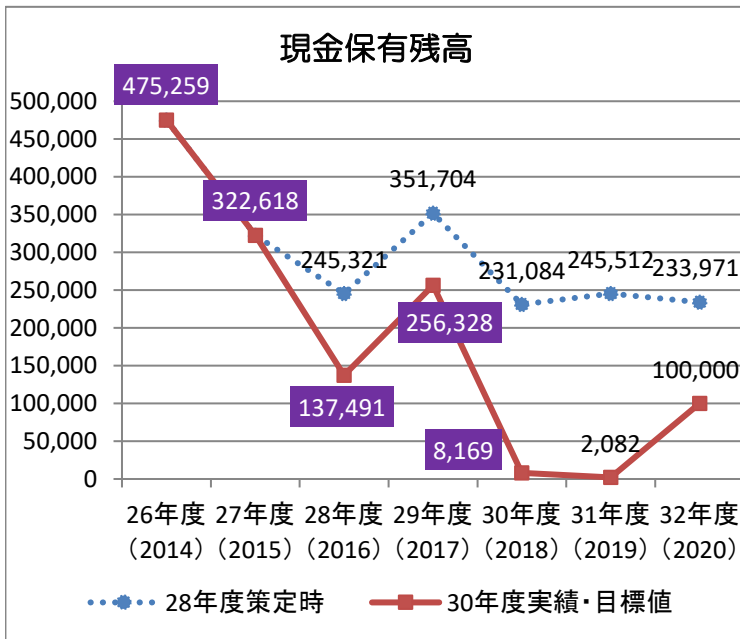
■ は実績値を表しています。

4 経営の安定性に係るもの

単位:千円、百万円

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)
現金保有残高	475,259	322,618	245,321	351,704	231,084	245,512	233,971
上段:28策定時、下段:実績・目標値	475,259	322,618	137,491	256,328	8,169	2,082	100,000
企業債残高	4,423	6,442	6,902	6,679	6,327	6,144	5,729
上段:28策定時、下段:実績・目標値	4,423	6,442	6,874	6,614	6,290	6,104	5,808

実績← →見込



目標：一定の現金の保有を目標

年度末において保有する現金・預金の残高を表しています。

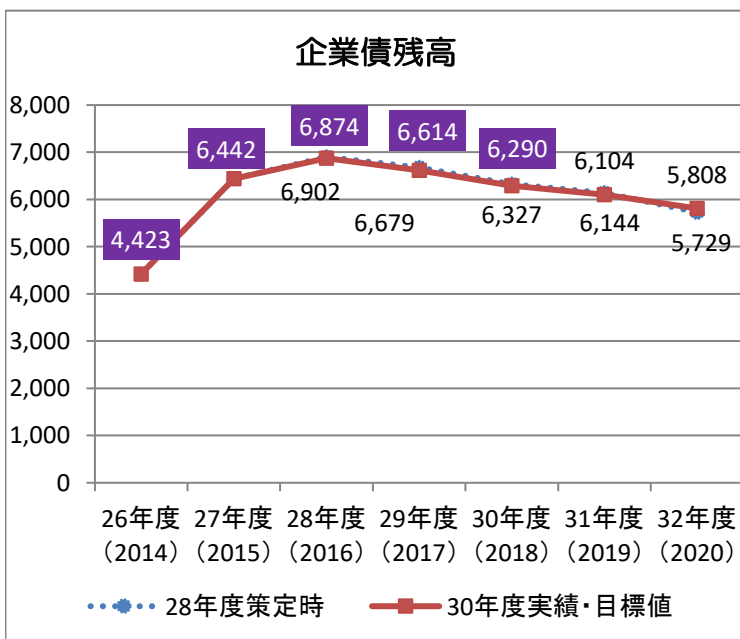
当初策定時との変動要素

診療棟耐震化整備事業に係る企業債元金償還金の発生や、医師の減少に伴う医業収益の減少により保有資金が減少しました。

改善に向けた課題

入院患者の確保と効率的な病床運用による医業収益の増加を図る必要があります。

■ は実績値を表しています。



目標：着実な減少を目標

建設改良費のうち、資産購入費及び改良事業費の財源として借り入れる企業債残高の推移を表しています。

当初策定時との変動要素

策定当時との大きな差はありません。今後も機器の更新を中心とした設備投資となるため残高は減少していく見込みです。

改善に向けた課題

老朽化している機器の計画的かつ効率的な更新

■ は実績値を表しています。

5 収支計画

単位：百万円

収益的収支		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
科目		(2014)	(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(計画)	(計画)
経常収益	A	3,392	3,513	3,372	3,325	3,395	3,587	3,740
医業収益		3,055	3,171	3,000	2,980	3,031	3,220	3,358
	入院収益	1,948	2,092	1,945	1,919	1,966	2,106	2,219
	外来収益	923	902	870	864	874	892	915
	他会計負担金	33	29	32	39	38	77	75
	その他	151	148	153	158	153	145	149
医業外収益		337	342	372	345	364	367	382
	他会計負担金・補助金	319	323	336	306	322	324	342
	その他	18	19	36	39	42	43	40
経常費用	B	3,651	3,771	4,934	3,781	3,793	3,887	4,072
経常損益	(A-B) C	△ 259	△ 258	△ 1,562	△ 456	△ 398	△ 300	△ 332
特別利益	D	0	0	0	0	0	0	0
特別損失	E	99	0	0	0	0	0	2
特別損益	(D-E) F	△ 99	0	0	0	0	0	△ 2
純損益	(C+F)	△ 358	△ 258	△ 1,562	△ 456	△ 398	△ 300	△ 334
累積欠損金	G	2,039	1,781	219	△ 237	△ 635	△ 935	△ 1,269
経常収支比率	(A/B×100)	92.9	93.2	68.3	87.9	89.5	92.3	91.8
医業収支比率		89.7	93.1	63.8	82.9	83.7	87.2	86.7

資本的収支		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
科目		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(計画)	(計画)
資本的収入計	A	1,438	3,037	1,091	445	348	603	432
企業債		992	2,325	752	172	79	323	148
出資金		237	264	247	268	254	273	284
その他		209	448	92	5	15	7	0
資本的支出計	B	1,629	3,257	1,201	646	536	799	637
建設改良費		1,254	2,937	877	213	131	359	166
企業債償還金		370	305	321	431	403	434	465
その他		5	15	3	2	2	6	6
資本的収支不足額	(B-A) C	191	220	110	201	188	196	205

流動資産	H	1,176	868	728	744	534	590	581
流動負債	I	943	709	772	1,021	1,056	1,078	1,061
うち企業債	J	305	321	431	403	434	465	487
正味運転資金	(H-(I-J))	538	480	387	126	△ 88	△ 23	7